平成２８年度　校内研究

三田川小学校は今年度、

吉野ヶ里町教育委員会より研究指定 、また

佐賀県教育委員会より「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の委託 を受け、「外国語活動」の研究に取り組んでいます。

公開授業を行います。ぜひ多数の参加をお願いします！

１　研究主題

「生き生きと活動しながらコミュニケーション力を高める外国語活動」

～人との関わりを実感できるような場の工夫を通して～

２　研究の目標

外国語活動を通して，児童が英語に親しみ，人と関わり合おうとし，自分自身や友達を認め，分かり合いたいと感じることができるような手立ての工夫を通して，進んでコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる指導方法のあり方を探る。

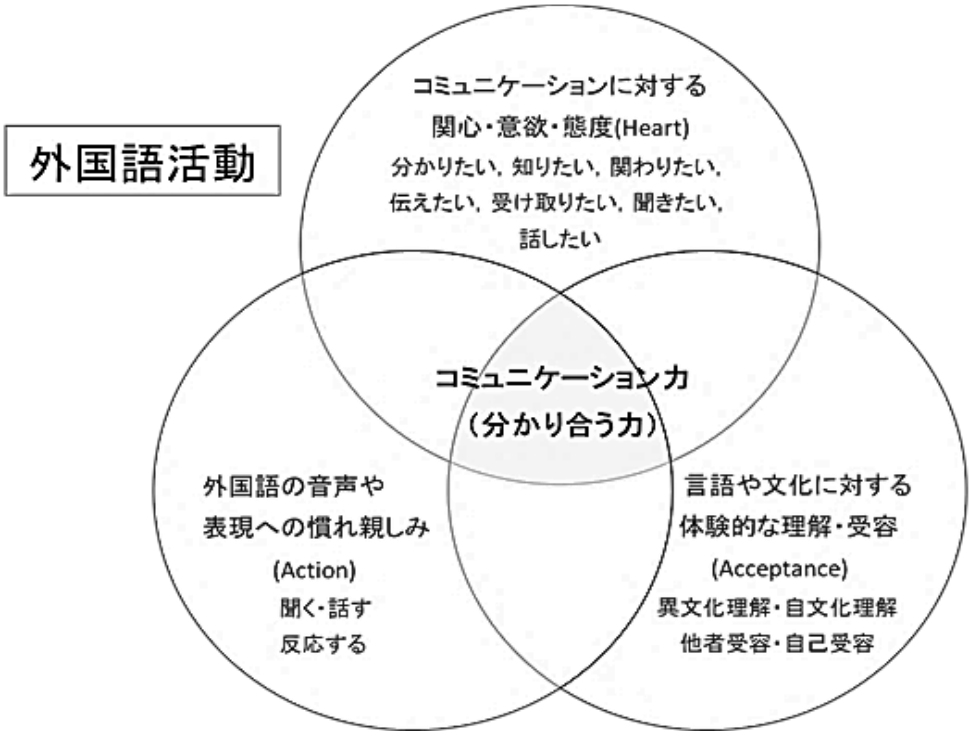
３　目指す子どもの姿

低学年	中学年	高学年
○　外国語を使った活動を楽しみ，仲よくまわりの人と関わろうとする子ども。 ○　活動を通して，友達のよさに気付く子ども。	○　外国語を使った活動に関心を持ち，進んでまわりの人と関わろうとする子ども。 ○　活動を通して，友達や自分のよさに気付く子ども。	○　外国語を使った活動に関心を持ち，進んでまわりの人を理解しようとする子ども。 ○　活動を通して，友達や自分のよさに気付き，互いに認め合う子ども。

４　コミュニケーション力について

全学年を通して，年間指導計画に基づく外国語活動の意図的，計画的な指導を実践する中で，「豊かな人間形成とコミュニケーション能力の育成」を目指す。コミュニケーション能力の向上について，「相手と仲良くしようという，共生の心(Heart・ハート)で接する」「意思疎通のための行動手段(Action・アクション)を持つ」「異なる言語や考え，価値観に気付き，自分や相手のよさを理解・受容(Acceptance・アクセプタンス)する」という３つの理念から活動を進めていく。（図１）その中で３つの理念を具体化する手立てや指

導過程，系統指導について研究を進めていく。また，中学校の英語教育と理念の面で連携させることで，中学校との連結期の「ゆるやかな移行」を図り，国際人としての基礎を育む。



5　評価の観点と観点の趣旨

評価の観点	観点の趣旨
コミュニケーションに対する関心・意欲・態度（Heart）	様々な人に積極的に関わり，相手の言っていることを一生懸命に聞いたり，自分の考えを聞き覚えのある単語や表現，ジェスチャーなど様々な方法を駆使して何とか伝えたりしようとする。
外国語の音声や表現への慣れ親しみ（Action）	相手の言っていることのおおよその内容をつかむことができるとともに，それに対して，言語や非言語を駆使して何とか反応したり，知っている単語や表現を使って話したりする。
言語や文化，人に対する体験的な理解・受容（Acceptance）	自分たちがもっているものとは異なる言語や考え方，価値観，文化などがあることに気付き，それぞれの長所・短所を客観的に見つめ，お互いのよさを理解し，お互いのことを受け容れる。

6　学年の目標及び評価の観点の趣旨

	低学年	中学年	高学年
目　標	身近な英語を使った活動の中で，仲良くまわりの人と関わろうとする。	簡単な英語を使った活動を通して，進んでまわりの人と関わる中で，友達や自分のよさに気付く。	簡単な英語や表現方法を使って，進んでまわりの人と関わり，互いに認め合う。

評価の観点の趣旨	コミュニケーションに対する関心・意欲・態度(Heart)	友達や先生と楽しんで関わり，相手をよく見て，しっかり聞いて反応しようとする。	様々な人々に積極的に関わり，相手の言っていることをしっかり聞いて，内容をつかみ，進んで反応しようとする。	様々な人と積極的に関わり，相手が言っていることを理解し，何とかして自分の考えを伝えようとする。
	外国語の音声や表現への慣れ親しみ (Action)	身近で簡単な英語を聞いて，言葉や体で反応している。	簡単な英語の質問や話を聞いて，どんなことが話題になっているかが分かっている。知っている単語やジェスチャーなど様々な方法で反応している。	簡単な英語の質問や話を聞いて，おおよその内容を理解している。簡単な英語や非言語を駆使して反応したり，話したりしている。
	言語や文化，人に対する体験的な理解・受容 (Acceptance)	自分とまわりの人との違いなどに気付いている。	自分とまわりの人の言葉や生活習慣・考え方の違いを知り，それぞれのよさに気付いている。	自分とまわりの人の言語や考え方，価値観，文化の違いを知り，それぞれのよさを認め，受け容れている。

7　研究の内容と方法

(1)　単元開発，教材・教具の開発

①　児童実態の把握(アンケート等の実施と分析)

5 月と 12 月にアンケートを実施し，児童の実態の把握と，指導の効果の検証を行う。また，「Q-U」による学級集団の実態を把握し，実態に即した授業の実践を行う。「Q-U」を客観的データとして，児童と学級集団の状態を理解する資料と児童の援助ニーズを共通理解する材料として活用する。学級生活不満足群や要支援群を把握し，個々の学級の実態に合わせた取組のベースとする。コミュニケーションの場としての外国語活動を成立させる前提として，支持的風土や自己開示のできる雰囲気が必要である。また，担任が主導する外国語活動は，担任が学級の実態を確認できる場となり，支持的風土や児童それぞれの自己肯定感を高める場となりうる。児童にとって，人との関わりを実感でき，相手意識を持って活動できるような活動や場を工夫した授業づくりを心掛けるようにする。

②　単元や授業における活動の配列の工夫

③　授業における効果的な教材・教具作りや提示方法の工夫

④　ICT 機器などを活用した授業実践

⑤　小中９年間を見通した「英語カリキュラム」の再検討

(2)　場づくりの工夫

①　活動形態の工夫（コミュニケーションをとる必然性のある活動形態の工夫）

②　相手意識をもって反応することができるような手だての工夫

「反応する」ことを外国語の音声や表現への慣れ親しみに含むものとする。相手の言葉に反応するためには，よく聞くことが必要になる。話す方は，反応してもらうことによりまた話したくなる。その相乗効果により，積極的にコミュニケーションをとることができる児童の育成を目指すものとする。

まず，ベースとなる非言語的反応の向上を目指す。笑顔で話を聞く，うなずきながら聞くなど親和的な

態度で話を聞く態度，ジェスチャーなどを使って何とか伝えようとする態度を育てる。

その上で，学年や実態に応じた会話を「つなぐ言葉」を活動の中に取り入れていく。それらの活動を年間を通して繰り返し行っていくことにより，児童のコミュニケーション力を高めていく。（図１）

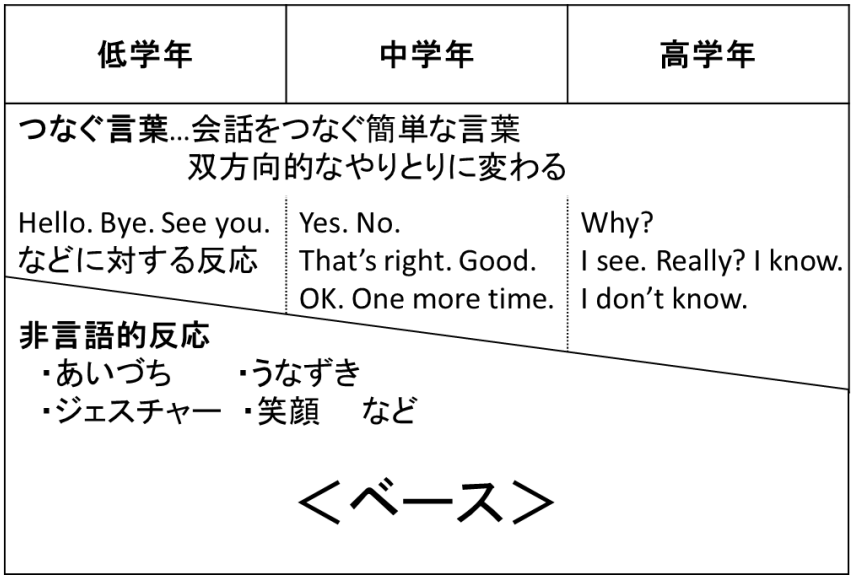


図１　「反応」のとらえ方

⑶　教師の指導力向上のための取組

①　代表者による授業研究会

年間６回の研究授業及び研究協議会を実施。低・中・高学年部ごとに全体授業研究会各１回，学年部グループ授業研究会を各１回実施。研究協議会では，協議の柱を決め，ブレーンストーミング（BS）とKJ法を取り入れ，授業についての感想や意見を自由に出し合いよりよい授業作りに役立てるようにする。

②　先進校の視察，各種研究会・研修会への参加

ア　単元開発，教材・教具の開発

⑺　児童実態の把握(アンケート等の実施と分析)

⑴　単元や授業における活動の配列の工夫

⑼　授業における効果的な教材・教具作りや提示方法の工夫

⑵　小中９年間を見通した「英語カリキュラム」の再検討

⑶　ＩＣＴ機器などを活用した授業実践

イ　場づくりの工夫

活動形態の工夫（コミュニケーションをとる必然性のある活動形態の工夫）

相手意識をもって反応することができるような手だての工夫

ウ　教師の指導力向上のための取組

⑺　代表者による授業研究会

⑴　先進校の視察，各種研究会・研修会への参加

これまでの研究の足跡

平成２１～２３年度　文部科学省「英語教育改善のための調査研究事業」（研究開発学校）研究委託

「やさしさ三田川の心で、コミュニケーションを大切に学び合う児童・生徒の育成」

平成２４～２５年度　吉野ヶ里町教育委員会　研究指定
「コミュニケーションを大切に，学び合う児童・生徒の育成」
～生き生きと活動しながらコミュニケーション力を高める外国語活動のあり方～

平成２６～２８年度（今年度）　吉野ヶ里町教育委員会　研究指定
「生き生きと活動しながらコミュニケーション力を高める外国語活動」
～人との関わりを実感できるような場の工夫を通して～

全学年での外国語活動への取り組み

三田川小学校では、１年生から６年生まで、英語に取り組んでいます。
１年生から４年生までは、余剰時数を利用して年間２１時間実施しています。
５，６年生は外国語活動で実施しています。（年間３５時間）

日々の授業

外国語活動ばかりに時間はかけられない…

① ３クラスの担任で単元ごとに担当を決める。
担任１人あたり…１～４年　２～３単元
…５，６年　３～４単元

② 担当者は，数年分のファイルを見て単元計画（毎年，紙とデータで保存済み）

③ 児童の実態を見ながら，活動を見直す。（だいたいそのまま使用）
略案，ワークシート，振り返りカードもあるので楽々♪

④ カード類（トピックごとに職員室後ろに保存），パワーポイントなど（校内サーバに保存）教材を準備

⑤　担任で打合せ（前日までに，１０分ぐらい）

⑥　ALT と打合せ（授業前　５分）

⑦　授業

教室で…担任主導で ALT との TT で進めます。

英語ルームで…広いスペースが必要な活動があるときなど使用

⑧　略案，ワークシート，振り返りカードをファイル，データで保存。

授業の流れ

基本的な授業の流れを設定しているので，誰でも授業の目標にせまれる授業ができる。

Greeting

Today’s Topic

↓

Warm-Up

↓

Activity

↓

Reflection & Sharing

↓

Greeting

Ｅタイム

平成２５年度より、「Ｅタイム」を設定しています。

「Ｅタイム」では、月に１回、朝の時間にＡＬＴの紹介や簡単な英語を使ったクイズを学校のテレビ放送を通して行っています。

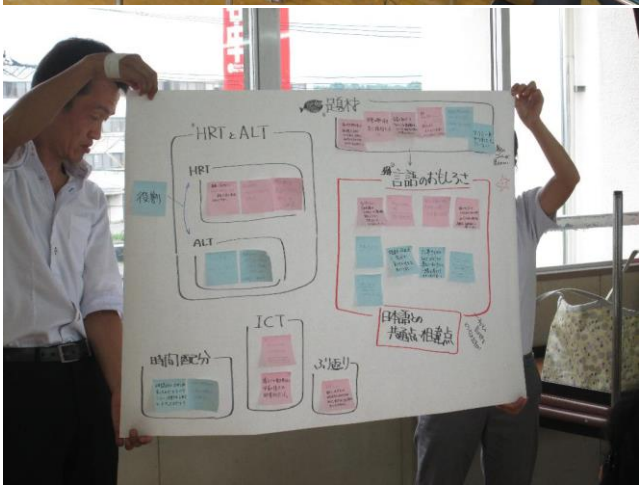
子どもたちもビデオを見ながら、英語に慣れ親しんでいます。

放送の後は、各学年の実態に応じた活動を行っています。

充実した研究会にするために

三田川小学校では、授業研究会にブレーンストーミング（ＢＳ）とＫＪ法を取り入れています。

研究授業後に、授業についての感想や意見を自由に出し合います。そして、その後意見や感想をグループ化し、論理的に整理してよりよい授業作りをするようにしています。



Let`s Enjoy English

調査資料部より、保護者向けに外国語活動の紹介をしています。

第１号　第２号

全校研（研究主任による提案授業）を行いました。６月１５日（水）

単元「できることなあに？」で，研究主任と ALT の TT で外国語活動の研究授業を行いました。

Warm-up では，ALT と一緒にジェスチャーをつけながらリズムよく英語で歌ったり，「サイモンセズゲーム」ではインタビューで使う動作の英語表現に慣れ親しんだりしました。

さらに Activity では，友達ができることを予想して“Can you cook?”“Can you play tennis?”などと英語でインタビューして積極的にコミュニケーションをとることができました。子ども達は，活動を通して，友達のことや考えを知る楽しさを味わい，互いに理解しあうことができたようです。

全校研を行いました。７月１４日（水）

「いろであそぼう」

Warm-Up

「カラーまねっこゲーム」…ALT の言った色を真似して言います。（左）
「カラー学校たんけんクイズ」…学校たんけんで見つけた物の白黒写真を見ながらどんな色だったか思い出す，（右）

Activity

「さかなつりゲーム」をしました。ALT が言った色の魚を釣ります。見ている児童も応援しました。

Ｈ２８　夏季研修会

西南女学院大学　横溝紳一郎先生講演会を実施しました！

「外国語を学ぶということ」異文化間コミュニケーションについてご講演を頂きました。
今回は，コミュニケーション能力の「共感する力」について，実際に体験する活動を取り入れた研修会となり

ました。

「アイコンタクトの違い」について，実際にどのくらい相手の目を見て話せるかを体験しています。

・様々な「常識」が，文化・社会によって違うこと

・文化が異なる人との接触によって「他者理解」「自己理解」「相互理解」が可能になること，自分の世界を広げて深めることができること

を学ぶことができました。

全校研を行いました。９月１４日（水）

４年３組で、全校授業研究会を行いました。単元名は　「楽しいスイミーワールドを作ろう」です。

ペアでのポインティングゲームです。

「海の生き物たし算ゲーム」で，言語のおもしろさや日本語と英語との相違点や共通点に気付いた子どもたちがたくさんいました。